

(学年) 3 学年、(教科・科目) 英語・コミュニケーション英語 II

個別学習

(単元) Lesson 9 Changing feelings

(本時のねらい)

本文の要約を用いて音読の録音を行うことで、ここで学習する背景知識や豊富な言語材料の定着につなげたい。また、自身の音読を繰り返し聞くことで、客観的に自分の英語力を認識し、弱点や強みを理解させるとともに、本文の要約で用いられる関係代名詞の用法や内容を正しく理解し、適切な音量や発音、スピードで音読をしようとする積極的な態度を育成することを目的としている。

(ICT 活用方法)

コラボレーションプラットフォームを音読のツールとして用いながら、知識の定着を図る。音読練習をする時間の確保や他の生徒の目を気にせず集中して練習する必要性を感じ、コラボレーションプラットフォームにアップした ALT の音声を自由に聞けるようにすることで、リスニングのスキルを強化するとともに、家庭学習をしやすい環境を作り、積極的な言語活動を目指した。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T 活用方法
導入 1 分	・ 本時の目標を知る。	・ 明るい雰囲気づくりに努め、本時の目標を伝える。	
展開 3 7 分	<ul style="list-style-type: none"> ・ お手本音声を用いて音読練習をする。 ・ 各班に分かれて音読の録音を行う。 ・ コラボレーションプラットフォームの自動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 録音のためにお手本に似せて発音できるように練習する。 ・ 適切な音量とスピードで音読できているか、机間指導する。できていない生徒には発音に自信のない単語の発音の確認を徹底し、助言を行う。 ・ feedback を確認し、リズム・流暢さ・日本語（カタカナ英語）の発音などの違いを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コラボレーションプラットフォームにアップしている ALT の音声を聞きながら練習させる。 ・ コラボレーションプラットフォームの課題機能を用いて、音読を録音させて提出させる。 ・ AI の評価と事前に提示してあるループリック

	評価機能と教員の評価の両方を確認する。		を用いて評価し、コラボレーションプラットフォーム内で返却する
まとめ 2分	・ 本時の目標を達成できているか確認する。	・ 本時の目標が達成できたか再確認させ、音読の重要性に気づかせる。	

(授業の様子)



全体の音読練習



個別練習と録音



feedback

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

生徒は初めての試みにも関わらず積極的にお手本音声を何度も聞き、初見で読んだときよりも音読練習を通じて改善していた。英語が苦手な生徒も、個別で練習する環境だったので家庭でしっかりと練習してパフォーマンステストに臨んでいた。

改善点

- ・ ヘッドセットがあると授業内でも集中して録音できる。